或 問 WAKUMON 105
No. 4 (2002) pp. 105～110

【表紙絵の解題】

中国のコマ漫画の濫觴

内田慶市

新しい文化・思想を伝達、普及させる上で、「絵」あるいは「漫画」という視覚的な表現が有効であることは今更言うまでもないことである。特に「漫画」について、たとえば、福沢諭吉はかつて北澤樂天に「画をもって世の中を動かすのは漫画の他にない」とその有効性を説いたと言われている。そして、近代における「西学東漸」の流れの中で、ヨーロッパから中国にやってきた宣教師達もそれらの表現を当然のことながら最大限利用しようとしたはずである。以前、この欄で取り上げた「聖像画」もその 1 つの現れであり、今回、表紙に掲げた「コマ漫画」風のものもその 1 つである。

ところで、日本における「漫画」の歴史をながめてみれば、古くは平安後期から鎌倉前期にかけて表された『鳥獣人物戯画』がその起源とされ、その後、室町後期にかけて『餓鬼草紙』『地獄草紙』『百鬼夜行絵巻』などが作られているが、それらはあくまでも「絵巻物」の一種であり、読者は貴族等の限られた階層でしかなかった。それが大衆のものとなるのは、江戸期のいわゆる「鳥羽戯画（絵本）」以降であり、一方ではまた「北齋漫画」なども生まれてくるのであるが、ここでいう「漫画」とは今で使われる「漫画」の意味とは異なり、「自由に思いつくままに描いた隨筆」とでもいうべきものである。当時はこのような「絵」を指す言葉としては「鳥羽絵」「狂画」「文字絵」「鞘絵」「もぬけ絵」「一筆絵」などがあったと言われている。

幕末に入り、風刺画家のチャールズ・ワーグマンが 1862 年より横浜の外国人居留地で『ジャパン・パンチ』という風刺雑誌を発行する。これ以降、「漫画」は「ポンチ（ポンチ絵）」と称されるようになるが、この時代の「漫画」はほとんどが文字無しの 1 コマ漫画であった。

その後、明治 35（1902）年 1 月、『時事新報』（明治 15 年福沢諭吉創刊）に「時事漫画」という時局風刺やコマ漫画が登場してくる。その欄を担当したのが北澤樂天（1876-1955）であり、彼は「ポンチ」に替って「漫画」（今の「漫画」と同義）なる言葉を普及させたのである。なお、現在のような新聞連載の「4 コマ漫画」は、麻生豊（1898-1961）が報知新聞に掲載した『ノキナトウサン』がその始まりと言われている。

こうして見ると、日本における「コマ漫画」は明治 35（1902）年以降のことであるが、表紙に掲げたものは、それよりも 20 年ほど前である。

この出典は『花圃新報』（Vol.1. No.9, 1880）であるが、この種のいわゆる子供向け啓蒙雑

誌に関しては胡道静「最早的畫報」（1939）以外にはこれまで余り研究が見られないようである。

胡道静によれば次のようである。

「畫圖新報」は最も早い画報ではなくて、最も早いものは、その姉妹雑誌である「小孩月報」である。それらはいずれも上海清心書館（後に中國聖教書會となる）から出版されたものである。「小孩月報」の創刊は1875年（光緒元年）3月であり、「畫圖新報」の創刊は1880年（光緒6年）5月である。

清心書館すなわち清心書院はニューヨーク長老会によって設立され、その学校の全ての資金は長老会から供給されていた。1861年の南北戦争勃発により資金難に陥り、そこで当時の院長であった范約翰（Rev. M. W. Farnham）は学校を半工半読制に改め、資金を維持するための業務として、園芸と印刷を行い、「小孩月報」と「畫圖新報」を発行した。

1880年以降は「小孩月報」と「畫圖新報」はいずれも「中國聖教書會（Chinese Religious Tract Society, Shanghai）に移管されて出版された。1894年には中國聖教書會は華東聖書會と合併し「聖教書會」と改められたが、2つの月報はその後も引き続き出版された。なお、「小孩月報」は1915年に、「畫圖新報」は1913年に停刊した。

図1 花図新報

この胡道静の記述には若干の訂正が必要である。

まず、「畫圖新報」の名称であるが、当初（創刊年=1880.5）は「花圖新報」というタイトルで発行されており（図1）、第2年第1巻（1881.5）より「畫圖新報」と名称が変更されている（図2）。また第2年第1巻からは「上海畫圖新報館印發」となる。「中國聖教書會印發」となっているものとしては筆者は、第3年第11巻（1883.3）のものをハーバード大学図書館で見ているが、恐らくは1882年あるいは1883年以降のことであると思われる。なお、英文タイトルはいずれも「The Chinese Illustrated News. Moral, Religious, Scientific, Instructive and Entertaining」であり、発行も「Shanghai: Illustrated News Office」とある。

「小孩月報」については、現物として筆者が見たのは、ハーバード大学図書館蔵のもの（1883年の第9年第2巻と1885年の第10年第10巻のみ所蔵→図3）と、セーラムにあるPeabody Essex Museumのもの（1877-1878, New Series. Second Volume. No.1-No.12）であるが、ハーバ

ード大学のものには「The Child's Paper 月報」とあるだけで、「小孩月報」とはなっておらず、発行も「中國聖教書會印發」となっている。一方、Essex のものには「The Child's Paper 小孩月報」とあり、発行は「上海清心書院」となっている。つまり、発行所の変更については胡の言う通りであるが、書名は発行が「中國聖教書會」に移ってからは単に「月報」とだけなったように思われる。また、Essex の 1 年分（12 巻）には、イソップが収められており、それもロバート・トームの『意拾喩言』（1840）を元にしていることは、かつて拙著『近代における東西言語文化接触の研究』の中で触れたことがある。なお、「小孩月報」に関しては、Britton1933 に次のような記述がある。

Juvenile magazines were begun simultaneously at Foochow and Canton, in February 1874. At Foochow Mrs. N. J. Plum and Mrs. Hubbard published a *Hsiao-hai Yueh-pao* 小孩月報, a monthly leaflet containing Biblical stories, small fiction, maxims, and lithographed Biblical pictures. This was composed in Foochow colloquial, and was given a circulation of 650 in 1882, more later. At Canton, John Glasgow Kerr, American Presbyterian medical missionary, began a *Hsio-hai Yueh-pao*, but produced only a few numbers, after which J. M. W. Farnham took it over at Shanghai and carried it to a considerable success. (56p)

図 2　画図新報

J. M. W. Farnham, American Presbyterian missionary at Shanghai, conduced "The Child's Paper" from 1875 to 1915.Circulation reached 4,500 monthly, mostly in bulk subscriptions taken by missionaries for distribution to children in their Sunday schools. The demand for Franham's first issue had been so great that it was reprinted. The rate for ten annual subscriptions was $1.50, later $1. The paper was generally eights leaves, and contained Biblical stories, simple instructive articles, small fiction and hymns, with copperplate illustrations. In later years most of the content was composed by Chinese members of the staff of the Religious Tract Society, organized in 1878. Farnham was active in this society and carried on the paper under its auspices. He also introduced a *T'u-hua Hsin-pao* 圖畫新報, 1880-1913, primarily a pictorial, distinguished for fine copperplate engraving. This reached a circulation of 3,000 monthly, at $2 for ten subscriptions. With the pictures, there were educational

articles on geography, astronomy and the like, and some news.（56-57p）

要約すれば、子供向け雑誌として「小孩月報」は最初、1874 年 2 月に福州と広東で同時に発行されたもので、福州においてはMrs. N. J. Plum（アメリカ美以美会のPlumの妻）と Mrs. Hubbard（アメリカ公理会の Nubbard の妻）によって出版され、福州語で書かれており、1882 年にはその発行部数は 650 に上った。一方、広東の場合は、アメリカ長老会伝道医師の John Glasgow Kerr（嘉約翰、1824-1901）によって発行されたが、わずか数号で終わり、その後は上海のアメリカ長老会の Farnham（范約翰、1830-1917）が引き継いで（1875-1915）多くの成功を収めた。その発行部数は実に毎月 4,500 部に上り、その購読部数の大部分は宣教師たちが日曜学校で子供たちに配付された。10 年分の購読料は初め$1.50、後には$1.00 であった。内容は毎号 8 葉で、聖書の話、簡単な教訓的な話、イラスト付きの短い故事と賛美歌等々であり、後期のほとんどの内容は 1878 年に Franham によって組織された中國聖教書會の中国人のメンバーによって書かれている。その後、Farnham はこの雑誌をこの会の下に置いた。彼はまた主に銅版による画報（「画報」という言葉は中国においては「瀛寰畫報」=1877 が最初であると言われている。→ Masini 214p）である「圖畫新報」も創刊する（1880-1913）。これもまた毎月の購読数は 3,000 に達し、値段は 10 号で$2.00 であった。内容は絵入りの、教育、地理、天文などに関するもの、およびニュースの類であった。

図3 月報

この Britton の言う「圖畫新報」は「畫圖新報」の誤りであるが、「小孩月報」あるいは「月報」に関してはこの記述の通りであり、私が見た現物も全 8 葉からなり、内容も同じである。

さて、表紙の「コマ漫画」である。中国にも古くから「平話」や「小説」の類には挿し絵（繡像）が置かれていたが、それらはいずれも、1 つの画面であった。ヨーロッパ人が中国布教のために作ったキリストの一生の「繡像」（『或問』第 2 号の「表紙解題」参照）も 1 つの「枠」の中で 1 つ或いは幾つかの話を描いたものであった。それに対して、いわゆる「コマ漫画」というのは、「起承転結」をそれぞれ 1 つ 1 つの枠の中で描くものである。これは 1 つの「飛躍」とも言うべきものである。ヨーロッパにおいて「コマ漫画」がいつ頃登場したのかは知らないが、この「小孩月報」や「花（畫）圖新報」には多くの「コマ漫画」が登

場している（図 4）。案外、「コマ漫画」はこの種の雑誌に起源をもっている可能性もあるかも知れない。どなたか、日下翠氏の『漫画学のススメ』（白帝社、2000 年）に続いて、「中国漫画史話」なるものをモノにされては如何だろうか。

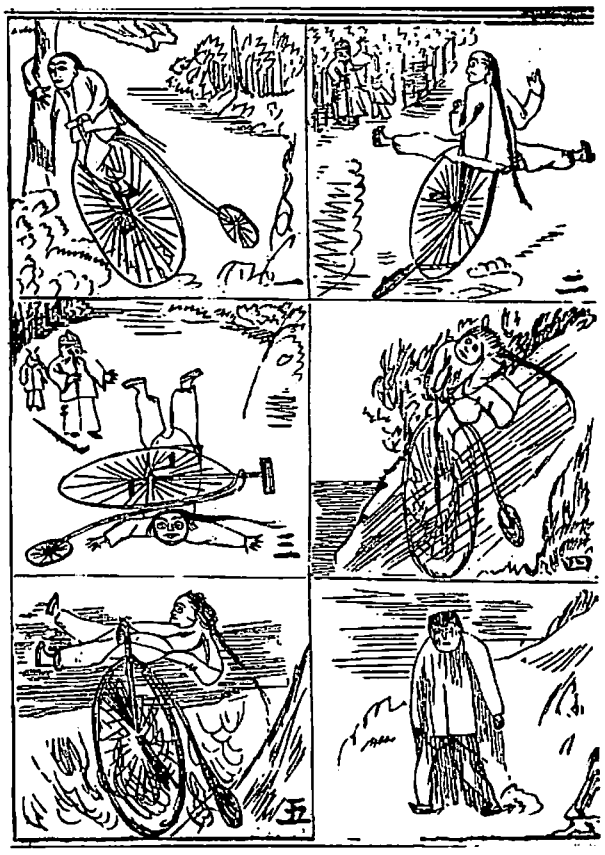

図 4　漫画

参考文献

Britton,Roswell S. *The Chinese Periodical Press*（*中國報紙*）, Shanghai,1933

胡道靜「最早的畫報」『上海研究資料續集』（上海書店 1939 年）

石子順『日本漫画史』上下（大月書店 1979 年）

清水勲『明治漫画館』（講談社 1979 年）

——『漫画の歴史』（岩波新書 1991 年）

馬西尼（F. Masini）『現代漢語詞彙的形成——十九世紀漢語外來語研究』（漢語大詞典出版社 1997）原書は *The Formation of Modern Chinese Lexicon and its Evolution toward a National Language: The Period from 1840 to 1888*, Journal of Chinese Lingusitics,1993.

内田慶市『近代における東西言語文化接触の研究』（関西大学出版社 2001 年）